

災害のその瞬間を生きのびる 災害護身術「火災編」概要

対象：4歳児以上 所要時間：20～30分

1. 家にひとり有的时候きに火事になったら

(1) 火事になったら警報が聞こえる 必要なもの ※住宅用火災警報器

- ・家の天井や壁についている機器は火事を知らせてくれる火災警報器
- ・火災警報器が鳴り出したら火事なので外に逃げなければならない
- ・どのような音がするのか実際に鳴らしてみる



(2) けむりは火よりもこわい 必要なもの ※大きな布・補助者

- ・煙を吸うと体が動かなくなって逃げ遅れて死んでしまう
- ・煙の広がり方を教える（上へのぼり天井で広がり下におりてくる）
- ・煙を吸わないためには姿勢を低くして逃げるのが大事
- ・なんでもいいので布で口をおおって煙を吸わないようにする



(3) 部屋からの脱出 必要なもの ※模擬ドア・模擬破壊板・模擬避難ハッチ

- ・ドアはいきなり開けずにしこし触れて熱くないか確認する。とくにノブはやけどの恐れがある
- ・ドアが熱いとはどのような状況なのかを理解させる
- ・ドアが熱くなければそ〜っと開けて煙を吸わないようにして逃げる
- ・ドアが熱かったらドアを開けずに窓側から逃げる
- ・一階ではそのまま窓から逃げる
- ・集合住宅にはベランダに破って隣に逃げる「破壊板」か下の階に逃げる「避難ハッチ」がある（未就学児には省略可）



(4) 助けを呼ぶ

- ・戸建て住宅の上階や破壊板等がない集合住宅では、自分がそこにいることを知らせるのが大切
- ・大声競争をして「助けて〜！」と思いきり3回言わせて感想を聞く「のどが痛い」「疲れた」など
- ・やみくもに大声を出すと余計に煙を吸ったり声が枯れてしまうので、下に人がいるのを狙って叫ぶ

2. 着ている服に火がついたら

- ・とまって！ びっくりして走り回ると火は余計に大きくなる
- ・たおれて！ 地面に倒れて燃えているところをこすりつける
- ・ころがって！ 顔を両手で守りながら左右に転がって火を消す

